

「三つの方針」（3つのポリシー）

区分	ディプロマ・ポリシー (DP)	カリキュラム・ポリシー (CP)	アドミッション・ポリシー (AP)
大 学 全 体	<ol style="list-style-type: none"> ① 把握する力 (知識・理解) 専門知識をもとに複合的な視点から社会を捉えることができる。 ② 考え抜く力 (判断・思考) 論理的思考に基づき批判的・創造的な判断ができる。 ③ 挑戦する力 (関心・意欲) 自己および社会を向上させようとする意欲をもつ。 ④ 協調する力 (態度・倫理) 多様な価値観に配慮しながら周囲と協調することができる。 ⑤ 行動する力 (発信・表現) 培った力を他者や社会の問題解決に活かすことができる。 	<p>編成方針</p> <p>必要な知識・技能を修得するために、次のカリキュラム編成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 広い視野・広範な教養・豊かな人間性を養い、国際化社会に対応するため、教養教育として「総合基礎教育科目」と「外国語教育科目」を設置する。 ② 「総合基礎教育科目」には、自らの価値観を形成し生きる力を養うための諸科目「共生」とスポーツ・健康に関心をもち生活の質を高めるための諸科目「健康とスポーツ」を設置する。 ③ 「外国語教育科目」には、国際コミュニケーション能力を育成するために英語を設置する。 ④ 「総合基礎教育科目」「外国語教育科目」は、それぞれ「基幹・基礎」科目と「発展・主題」科目に区分して設置する。 ⑤ 「共生」の「発展・主題」科目は、「人間・文化」、「国際・社会」、「環境・科学」、「教育・学習」に区分して設置する。 ⑥ 専門教育のカリキュラム編成は、授与する学位の専門分野に基づき、各学科において定める。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 異なった価値観・異文化に対して関心と理解を持つことができる。 ② 運動・スポーツに関心をもち、健康を維持することができる。 ③ 教育の意義を理解し、自ら学習する態度を身につける。 ④ 自然・社会との関わりを理解し、自ら判断することができる。 ⑤ 外国語を用いて交流することができる。 ⑥ さまざまな学問の基本的な考え方を理解することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 知識・技能 各学科での学びに繋がる基礎学力を備えている人。 ② 思考力・判断力・表現力等の能力 問題を多角的に捉えて、適切に判断し表現することができる人。 ③ 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 目標・目的を定めて、向上心をもって成長しようとする人。
法 学 科	<p>法学科では、法学科のアドミッションポリシー・到達目標・カリキュラムポリシーを踏まえ、以下の能力を備えた者に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 把握する力 (知識・理解) 社会に必要な法的知識を習得し、社会における法律の役割を理解できる。 ② 考え抜く力 (判断・思考) コミュニケーション・スキルを持ち、物事を冷静・客観的に分析し、合理的な判断ができる。 ③ 挑戦する力 (関心・意欲) 多様な価値観を受容しながら、公平・公正な社会を実現するために努力できる。 ④ 協調する力 (態度・倫理) 社会に貢献するため、社会人に求められる基本的な素養・倫理観を備えている。 ⑤ 行動する力 (発信・表現) 法学科で学んだ知識と考え方を活かし、自ら運用することができる。 	<p>編成方針</p> <p>卒業後の進路を考慮し、法学科では、「公務員モデル」「企業モデル」「法律家モデル」という3つの履修モデルを用意し、各モデルに沿った形の体系的なカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) いずれのモデルにおいても、1年次に基礎演習を履修、大学での基本的な学習作法を学ぶ。併せて、基本科目である憲法・民法・刑法を中心としたカリキュラムを編成するが、法学の学習に不慣れな点を踏まえ、体系的な理解ができるような授業を展開する。また、資格試験に有用な科目を設置し、学習した法律学がどのように役立つかも理解してもらうとともに、将来のキャリア形成の手助けをする。 (2) 各モデルに応じてカリキュラムマップを策定し、それに沿った形で、 <ol style="list-style-type: none"> ① 「公務員モデル」にあつては、希望する公務員職種に合わせ、公務員試験および公務員任用後に必要な法律科目（憲法・民法・刑法・行政法・自治体法・刑事訴訟法など）を履修させる。 ② 「企業モデル」にあつては、民間企業への就職およびその後の活躍に必要な法律科目（民法・会社法・商法・国際私法・知的財産法・労働法など）を履修させる。 ③ 「法律家モデル」にあつては、法科大学院進学あるいは各種の資格試験（司法書士や行政書士など）を目指すことを想定し、いわゆる基本7法（憲法・行政法・民法・会社法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）を含む広範な法律科目を履修する。また、学内の法科大学院研究室も、目標達成を支援する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 法律を学ぶことを通じて、社会の仕組みを知り、社会のあらゆる問題に対して考える力を備えた人間になる。 ② 社会のさまざまな紛争とその解決過程を学ぶことを通じて、他者を理解し、物事を多面的にとらえることのできるバランスのとれた考え方ができる人間になる。 ③ 明確な自分の将来像をもつとともに、その実現のため、自ら考え、冷静・客観的な判断・行動ができる人間になる。 ④ ①～③により、総合的な学習を経験し、創造的思考力を身につけた人間になる。 	<p>本学の教育理念および教育目標のもと、法学科では、次のような人材を求める。</p> <p>[求める学生像]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 法学科での学びにつながる基礎学力を備えている人。 ② 社会で起きているさまざまな問題に対して興味をもち、それを主体的に考え、表現することができる人。 ③ 法学科で自分を成長させようとするつよい意志と意欲を持っている人。 ④ 明確な目的をもち、その実現のための具体的計画を立てられる人。 <p>[入学者に求める能力]</p> <p>現代社会の基礎となっている市民社会と人権を理解するために、公民（現代社会、倫理、政治・経済）、地理歴史（世界史、日本史、地理）、また、言語感覚及び論理的思考力を身につけるために国語、外国語及び数学の基本的な事項について学んでおくことを求める。</p> <p>[評価方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試（センター方式、本学一般試験方式） 大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査において、志願者の能力や資質を総合的に評価する。 ・入試（推薦試験） 調査書、面接及び小論文において、志願者の能力や資質を総合的に評価する。
政 治 行 政 学 科	<ol style="list-style-type: none"> ① 把握する力 (知識・理解) 社会人として必要な幅広い教養と、政治学・行政学の専門的知識を身に付け、それらの知識を背景に社会的現象を複合的に理解できる。 ② 考え抜く力 (判断・思考) 社会的現象に対して論理的・政策志向的に考察し、批判的・創造的な判断ができるようになる。 ③ 挑戦する力 (関心・意欲) 自らが志向する専門分野のみならず、関連・隣接分野に至るまで常に主体的・自主的に学び、学修の成果を社会の発展に役立てよう努める。 ④ 協調する力 (態度・倫理) 公共性に対して常に配慮する責任感・倫理観を持ち、グローバルな視点をもって、自らと異なる文化・価値観に対し寛容な姿勢を涵養する。 ⑤ 行動する力 (発信・表現) 社会生活の基礎となるコミュニケーション能力、情報収集能力、問題発見・分析・解決能力を身に付ける。 	<p>編成方針</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学科専門教育と密接に連携した語学、基礎教育科目、政治行政学導入科目を幅広く設置する。 ② 政治学、行政学、憲法学など学科教育の中核となるべき科目を選択必修とし、幅広い専門科目修得に向けた基礎的学力を養成する。 ③ 専門科目群履修に際し、学生の将来の志望に則した「行政・政策」、「市民・政治」、「国際関係」の各モデルを設定し、自発的選択を促す。 ④ 総合科目、アクティブ授業など座学の知識を実践に転換する能動的科目を設置し、学生の社会性涵養をめざす。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 公共的な事柄に対する関心を持ち、政治・行政・社会との関わりを意識する。 ② 政治・行政・社会に関する概念・用語を理解し、知識として習得する。 ③ 知識を応用して、現実の政治現象を分析し、判断する。 ④ 分析と判断を基礎として、政策志向的な研究・議論を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 政治行政学での学びに繋がる基礎学力を備えている人。 ② 身近な地域から世界まで、社会的な事象に対する関心を持っている人。 ③ 自発的自律的に学び、自己を向上させようという意欲を持っている人。 ④ 学びの成果を、社会の発展につなげ、役立てようという意志を持っている人。
現 代 ビ ジ ネ ス 学 科	<ol style="list-style-type: none"> ① 把握する力 (知識・理解) 幅広い教養と経済・経営・情報に関する専門知識を身につけ、これらを用いて多面的に経済社会を捉えることができる。 ② 考え抜く力 (判断・思考) 地域社会で生じる諸課題を発見し、ビジネスの視点から課題解決に向けた論理的・批判的・創造的な判断ができる。 ③ 挑戦する力 (関心・意欲) ビジネス業界の特徴や地域社会が抱える課題に関心をもち、積極的に自己・組織・地域社会を改善する意欲をもつ。 ④ 協調する力 (態度・倫理) 高い職業倫理に基づいて自己コントロールができ、多様な価値観に配慮しながら、他者と積極的に関わることができる。 ⑤ 行動する力 (発信・表現) 企業経営や組織運営において、適切なコミュニケーションを用いながら、培った力を効果的に発揮できる。 	<p>編成方針</p> <p>現代ビジネス学科の教育目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教養教育においては、自他の課題を改善していく意欲を持ち、社会状況を多面的に把握し、個々の課題を分析・判断し、多様な価値観に対応できるコミュニケーションと実践的な行動ができる基礎を養うための科目を総合基礎教育科目に設置する。 ② 専門教育の第一段階として、横断的基盤教育と領域別基盤教育の2系統から構成される「基盤教育」科目群を設置し、「中核教育」科目群並びに「応用教育」科目群を学ぶために必要となる理解力を醸成する。 ③ 専門教育の第二段階として、地域経済の現場において実践的に運用されるべき知識体系を学ぶ「中核教育」科目群を設置する。これは専門教育課程の中核を担うもので、経済学、経営学、マーケティング、簿記・会計、情報の5つの分野から構成される。 ④ 専門教育の第三段階として、産業別応用教育と実践教育から構成される「応用教育」科目群を設置する。これは、教養教育並びに専門教育の学修内容を基礎に、その実践的運用に必要な能力を涵養するためのものである。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幅広い教養と経済・経営・情報に関する専門知識を身につけ、これらを用いて多面的に経済社会を捉えることができる。 ② 地域社会で生じる諸課題を発見し、ビジネスの視点から課題解決に向けた論理的・批判的・創造的な判断ができる。 ③ ビジネス業界の特徴や地域社会が抱える課題に関心をもち、積極的に自己・組織・地域社会を改善する意欲をもつ。 ④ 高い職業倫理に基づいて自己コントロールができ、多様な価値観に配慮しながら、他者と積極的に関わることができる。 ⑤ 企業経営や組織運営において、適切なコミュニケーションを用いながら、培った力を効果的に発揮できる。 	<p>現代ビジネス学部では、地域経済の担い手として、人々から信頼され、社会において幅広い分野で活躍できる自律的な能力を持った人を育成する。</p> <p>そのため、現代ビジネス学部に入学者には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 知識・技能 現代ビジネス学部における導入科目を履修するために必要な基礎知識を備えていること ② 思考力・判断力・表現力 現代におけるさまざまな問題に対して関心を持ち、多様な経済活動で地域社会に貢献する意識を持つこと ③ 主体性 他者と積極的に関わる意欲や態度を備えていること <p>を求めます。</p>

区分	ディプロマ・ポリシー (DP)	カリキュラム・ポリシー (CP)	アドミッション・ポリシー (AP)
経営情報学科 (学生募集停止)	<p>経営情報学部では、以下の能力を備えたものに学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 多様な組織において、適切なマネジメントができる。 ② 問題の解決のために、的確に情報の処理や分析ができる。 ③ 課題の遂行のために、さまざまな情報機器を活用できる。 ④ 世の中の仕組みを理解し、新たな価値を創造・提案できる。 ⑤ 問題の発見・理解・解決に際して、知識や技術を自律的に応用できる。 	<p>編成方針 経営情報学部の教育目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 総合基礎教育科目においては、広い視野と豊かな教養を身につける。 ② 外国語教育科目においては、語学力の育成とともに多様な文化の理解を行う。 ③ 専門教育科目においては、経営学と情報科学、およびその学際的・統合的な領域を、ビジネスマネジメント、ファイナンス、イノベーションサイエンス、情報システム、スポーツマネジメント(情報)、スポーツマネジメント(経営)、ゼミ・実践の科目群に分け、それぞれについて体系的なカリキュラムを編成する。 ④ 少人数のゼミを4年間にわたって配置することにより、教養的・専門的な学習を行うとともに、対人コミュニケーション能力の涵養を図る。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 経営学を学び、経営上の問題と解決方法を習得する。 ② 財務や会計、経済について学び、社会におけるお金の流れを理解する。 ③ 情報を数学的・統計的に分析や処理する方法を学び、新たな価値の意義を理解する。 ④ 情報通信技術を学び、その技能を習得する。 ⑤ スポーツに関する情報を学び、その処理や活用方法を習得する。 ⑥ スポーツマネジメントを学び、具体的な問題とその解決方法を習得する。 	<p>経営情報学部では次のような人材を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 多様な組織においてリーダーシップを発揮したいと考えている人。 ② 論理的に考えて行動できる人。 ③ 積極的かつ自律的に学習する意欲のある人。
管理栄養学科	<ol style="list-style-type: none"> ① 把握する力(知識・理解) 管理栄養士として保健・医療・教育・福祉・介護等の多様な領域で必要とされる専門的な知識・技能を修得し、多角的な視点から社会の課題を考察することができる。 ② 考え抜く力(判断・思考) 食と健康にかかわる課題を解決するための情報収集・分析能力と論理的・創造的な思考力を身につけている。 ③ 挑戦する力(関心・意欲) 管理栄養士の社会的使命を自覚して新しい知識・技能の習得に努め、それらを総合的に活用して社会に貢献しようとする意欲を持っている。 ④ 協調する力(態度・倫理) 健康と生命に対する倫理観を有し、人々の多様な社会的・文化的背景を理解しようとする意欲を持っている。 ⑤ 行動する力(発信・表現) 考えを的確に表現し、他者と協同して社会で役立つ成果を生み出すことができる。 	<p>編成方針 管理栄養学科の教育目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 総合基礎教育科目においては、社会を築く構成員としての幅広い教養を養う科目、大学で学ぶ意義を明確にし、学ぶためのスキルと思考力、対人関係力の育成を図る科目、情報と機器を十分に活用できる能力を養うための科目を設置する。 ② 専門教育科目の導入分野では、専門領域を学ぶ上での基礎となる知識を修得し、管理栄養士の役割・使命についての理解を深め、専門領域の学習に向けた学力の向上と目的意識の明確化を図るための科目を設置する。 ③ 専門基礎分野・専門分野では、管理栄養士として国民の健康栄養管理を担う意欲と質の高い専門的知識・技術を養い、優れた栄養指導能力を育成するための科目を設置する。 ④ 専門発展分野では、管理栄養士としての総合的な学力の向上を図るとともに、地域の具体的な課題に対応した健康増進・食育推進・食産業振興の実践的な活動が展開できる能力を養うための科目を設置する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 管理栄養士としての専門的な学習を通じて、基礎的な知識・技術を獲得している。 ② 体験的な学習を通じて、適切なコミュニケーションにより他者を理解し、客観的な判断と行動ができる。 ③ 管理栄養士としての社会的使命と責任を自覚している。 ④ 食と健康にかかわる課題を抽出し、解決するための具体的な提案ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 知識・技能 専門的な知識を学ぶ上で重要となる基礎学力を備えている人。 ② 思考力・判断力・表現力 課題の解決に必要な分析能力や思考力を備え、自己の考えを論理的に述べることができる人。 ③ 主体性 専門職として明確な目標と向上心を有し、学問に取り組む意欲をもっている人。
国際リベラルアーツ学科	<p>国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科では、所定の単位を修め、以下の能力を備えた者に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力を有している人。 ② 批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力を有している人。 ③ 異文化に対する親しみと寛容の精神を身につけている人。 	<p>編成方針 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の教育目的を達成するために、リベラルアーツ型のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力を身につけるための科目を設置する。 ② 批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力を身につけるための科目を設置する。 ③ 異文化に対する親しみと寛容の精神を身につけるための科目を設置する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力を身につける。 ② 批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力を身につける。 ③ 異文化に対する親しみと寛容の精神を身につける。 	<p>国際リベラルアーツ学部では、英語による授業の実施と幅広い授業科目の展開を通じて、学生が知的側面においても精神的側面においても成長することを目指した教育が実施されることから、次のような人材を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 意欲が高く熱心な人。 ② 学問的な潜在能力と一定の学業上の成果を有する人。 ③ 寛容な精神とともに、知的好奇心があり、批判的で柔軟な思考ができる人。 ④ 本学部での学修に必要な基礎的な英語力と、英語の学習能力が備わっている人。
スポーツ科学科	<ol style="list-style-type: none"> ① 把握する力(知識・理解) スポーツ科学の学際的知識(人文科学・社会科学・自然科学)をもとに幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、複合的な視点から社会を捉えることができる。 ② 考え抜く力(判断・思考) 体系的にスポーツに関する理論を学ぶことによって修得した社会人基礎力を基に、スポーツの実践場面で論理的思考に基づき批判的・創造的な判断ができる。 ③ 挑戦する力(関心・意欲) 高いスポーツ競技力や運動能力を身に付けるとともに、修得した競技スポーツや生涯スポーツの実践に有用な専門的な知識や技能を生かして、主体的に自己および社会を向上させようとする意欲を持つ。 ④ 協調する力(態度・倫理) 競技スポーツや生涯スポーツを学ぶことで、多様な価値観に配慮しながら全人的なバランスのとれた態度で周囲に働きかけ協調することができる。 ⑤ 行動する力(発信・表現) 培った力を他者や社会のスポーツや体育、健康に関わる今日の課題の解決に活かすことができる。 	<p>編成方針</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一般教養科目を幅広く履修できるための科目を設置する。〔総合基礎教育科目、など〕 ② 専門教育科目を幅広く履修できる科目を設置する。〔専門教育科目「共通科目」、など〕 ③ スポーツ実技科目を幅広く履修できるための科目を設置する。〔専門教育科目「共通科目」など〕 ④ 各人の興味・関心や将来設計に応じて、より発展的な専門科目を総合的に履修できるための科目を設置する。 ⑤ ④を踏まえて、卒業後の進路と大きく関連する専門科目を重点的に履修できるための科目を設置する。〔専門教育科目「キャリア形成科目」〕 ⑥ 開設科目をできる限り精選し、意味のある科目を効率よく履修できるようにする。 ⑦ 各人の興味・関心や将来設計に応じて、個性を活かした履修計画を立てられるようにする。 ⑧ 学習意欲を喚起するために、できる限り少人数による授業を設置する。 ⑨ 学年進行に合わせて(レディースに合わせて)授業を履修できるようにする。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツ科学の学際的知識(人文科学・社会科学・自然科学)をもとに幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、複合的な視点から社会を捉えられるようになる。 ② 体系的にスポーツに関する理論を学ぶことによって、学問知と実践知・経験知を融合し、スポーツの実践場面で有用な論理的思考や創造的判斷ができるようになる。 ③ 高いスポーツ競技力や運動能力を身に付けるとともに、修得した競技スポーツや生涯スポーツの実践に有用な専門的知識や技能を活かして、主体的に自己および社会を向上させようとする意欲を高める。 ④ 競技スポーツや生涯スポーツを学ぶことで、社会の多様な価値観に配慮し、地域社会等と連携を図りながら、全人的なバランスのとれた態度で周囲に働きかけ協調することができる。 ⑤ 培った力を他者や社会のスポーツや体育、健康に関わる今日の課題の解決に活かすべく、社会人基礎力(前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク))を身に付ける。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 知識・技能 大学での学びにつながる基礎学力、運動能力を備えている人。 ② 思考力・判断力・表現力 スポーツや体育、健康に関わる今日的な課題を多角的に捉え、判断し、表現することができる人。 ③ 主体性 周囲と協働しながら、以下に示す課題を達成しようとする人。 (1) 授業やスポーツクラブの活動をとおして、競技力や運動能力をさらに高めること。 (2) 授業やスポーツクラブの活動をとおして、スポーツ科学の“知と技”(指導能力、研究能力、科学的サポート能力、マネジメント能力など)を実践的に身に付けること。 (3) 大学生活で得た学修成果を、国内外のさまざまなスポーツ関連分野において活かすこと。